

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 宮島喜文

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1～P3 15th Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Science 参加レポート

P4～P5 日臨技 会員情報変更手続きのご案内

15th Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Science 参加レポート

日臨技 国際活動WG委員 片山 博徳

15th Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Science (APFMLS) は、2024年4月20日と21日に台湾高雄市の高雄コンベンションセンターで開催されました。この学会は Taiwan Association Of Medical Technologists (TAMT) の主催で行われています。

本大会のテーマは「- Embrace a New Era of Precision Medicine - M.T.s are ready」であり、近年における科学技術の進歩と精密医療への移行に伴い、医療検査技師が求められる役割と能力について議論されました。

4月20日 9:00からのオープニングセレモニーでは、JAMTの長沢副会長が宮島会長の祝辞を代読し、APFMLSの開催に祝意を述べました。また、台湾医学検査学会の Te-Lung Tsai 理事長が、台湾でのAPFMLS開催を歓迎する挨拶を述べました。



オープニングセレモニー



祝辞を述べる長沢副会長



台湾高雄市の高雄展示センター

JAMT 役員
左から益田常務理事、長沢副会長、深澤専務理事

JAMTをはじめ、海外からは Korean Association of Medical Technologists (KAMT) やタイ国の臨床検査技師会も参加しました。当会からは長沢光章副会長、深澤恵治専務理事、益田泰蔵常務理事、国際学生フォーラムに樋口侑紀さん（神戸常磐大学）、国際eポスターセッションに山中万次郎先生（信州大学医学部附属病院先端細胞治療センター）、国際シンポジウムを片山が担当し、総勢で6名が参加しました。学会前日の4月19日（金）にはエクスカーションとして高雄市のツアーがあり、台湾の豊かな文化と歴史に触れることができました。さらに歓迎夕食会が開催され、参加者同士の交流を深める機会となりました。

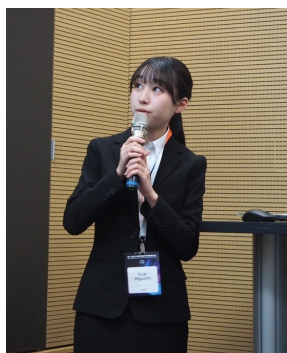
10:00からの国際シンポジウムでは、セッションテーマ「Precision Medicine and Regenerative Medicine」として、講演タイトル「Cytology as a Tool for Precision Medicine and Regenerative Medicine in Mesothelioma」で片山が発表しました。

同日の午後から国際学生フォーラムで、樋口侑紀さん（神戸常磐大学）が「Health management incorporated into daily ~ Hospital moving to patient」のタイトルで発表し、将来の臨床検査技師としての活

躍が期待されました。特に、日常生活に取り入れた健康管理に関する発表は、実践的で参考になると好評でした。樋口さんは台湾、韓国の学生とも積極的に交流し、有意義なフォーラムとなりました。

国際e-ポスターセッションでは、山中万次郎先生（信州大学医学部附属病院先端細胞治療センター）による「Management of the Center for Advanced Cell Therapy and Apheresis Operations: Progress Toward Task Shifting in our Hospital」の発表が多く、の参加者に好評でした。

国際シンポジウム



国際学生フォーラム
樋口 侑紀さん



国際e-ポスターセッション
山中万次郎先生

18:00からのガラディナーでは、海外からの参加者やTAMTの参加者と交流し、親睦を深めることができました。国際的なネットワークを築くことができ、今後の活動に有効な意見交換ができました。

4月21日には台-日代表者会議が開催され、両国の医療検査技師の現状や課題について情報交換を行いました。長沢副会長から、APFMLSへの招待への感謝の挨拶と、2024年5月11日と12日に石川県で開催される第73回日本医学検査学会、および2026年の International Federation of Biomedical Laboratory Science の学会大会の開催への協力を依頼しました。TAMTの Te-Lung Tsai 理事長からは、APFMLS2024への歓迎の挨拶と、台北市での2025年の APFMLS と同時期に開催予定の第8回 Asia Association of Medical Laboratory Scientists への協力要請がありました。



台-日代表者会議

以上が、第15回 Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Science の学会参加報告書となります。本学会では参加者全員が活発に議論し、新しい知見や技術を共有することで、臨床検査技師としての役割と責任の再確認ができたと考えます。また、国際的な協力関係が強化され、将来の共同研究やプロジェクトの可能性が広がったように感じます。臨床検査技師としての専門性を高めるためにも、本会への参加を勧めたいと思います。



ガラディナーでの記念撮影

次ページでは学生フォーラム、国際e-ポスターセッションに参加されたお二人の感想をご紹介します。

国際学生フォーラム

刺激を受けた4日間

樋口侑紀（神戸常盤大学）



この度、台湾にて開催された15th APFMLSに参加させていただきました。学生発表のテーマは「What can Medical Technologist do to improve patient health care」となっており、私は「Health management-incorporated into daily~Hospital moving to patient~」という表題でMedical examination busを用いた患者の健康管理について発表させていただきました。今回、学会での発表が初めてであったこともあり準備からたくさんの方々を支えていただきました。韓国、台湾の方々とは同年代とは思えないほど流暢な英語で堂々と発表されており、私もよりいっそう努力しなければと感じさせられました。ディスカッションでは私の発表した議題を含め新しい意見を聞くことができとても良い学びとなりました。



記念撮影の様子

発表当日以外でも日本を含めた様々な臨床検査を担う方々とお話する機会があり、とても良い刺激を受けました。4日間台湾で体験したことは私にとってとても大きな財産となりました。この経験を生かして、これからの医療で活躍できるように引き続き勉学に取り組んでいきたいと思ひます。学生の私に貴重な機会をくださったJAMT、TAMTをはじめとした関係者の皆様、発表までの準備を支えてくださった先生方、家族や友人に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

国際e-ポスターセッション(ポスター発表)

国際交流の懸け橋に

山中万次郎(信州大学医学部附属病院 先端細胞治療センター)



2024年4月18日～4月21日に開催された 15th Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Science (APFMLS) 台湾学会にてポスター発表をし、日臨技の先生方とイベントにも参加させていただきました。

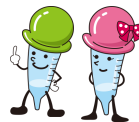
国際シンポジウムのテーマが「Precision Medicine and Regenerative Medicine」であり、私がCAR-T細胞療法に関わる仕事をしていたため上司からお声かけいただいたことがきっかけとなり台湾高雄市に行くことができました。高雄空港に着いたところから台湾の臨床検査技師会の方々に歓迎していただき、4日間の中で台湾、タイ王国、韓国の方々と交流できて大変貴重な経験をさせていただきました。またこのような機会に発表できるように日々研鑽を積みたいと思ひます。

ポスター発表でしたが日臨技に準備段階からサポートしていただき、宿泊費の支援をしていただきありがとうございました。また、台湾でお世話になった柯健興先生、日臨技の長沢光章副会長、深澤恵治専務理事、益田泰蔵常務理事、国際医療福祉大学の片山博徳先生、神戸常盤大学の樋口侑紀さんにはこの場をお借りして心より御礼申し上げます。今後もこのような国際交流の機会に多くの方が参加していただければと期待しています。



学会でお世話になった皆さまと（学会後の夜市にて）

日臨技 会員情報変更手続きのご案内



職場の異動・お引越に伴う会員情報の変更はお済みですか？ご自宅住所や職場の変更をいただきませんと、当会からの重要なお知らせや会誌「医学検査」がお手元に届かなくなってしまう可能性があります。情報に変更があった場合には、速やかに変更手続きをお済ませください。各項目の変更方法をご案内いたします。

まずは会員専用ページへ



施設番号が入力されている場合は、「クリア」で空の状態にしてから、新たに施設番号を入力してください。施設情報が自動で表示されます。

勤務先の変更でよくある質問

❓ 施設番号を入力しても、施設が表示されません。

- Ⓐ 以下の3点をご確認ください。
- ・入力後、Enterキーを押してください。「検索」ボタンでは表示されません。
 - ・半角英数で入力されていますか。
 - ・都道府県施設番号等を入力されていませんか。都道府県施設番号が複数ある場合は、日臨技施設番号と同一の番号を入力してください。

❓ 施設番号がわかりません。

- Ⓐ 「検索」を押すと施設名称・住所等で検索できます。検索結果から該当の施設を選択してください。
- ※名称で検索する場合はスペースの有無等で検索結果が異なるため、名称の一部で検索することをお勧めします。

❓ 施設番号の登録がありません。

- Ⓐ 「施設登録用紙」を印刷・ご記入の上、ご提出ください。勤務先として登録したい場合は「会員異動届」と併せてご提出ください。
- ※施設番号の下枠内から用紙をダウンロードできます。

❓ 施設の情報を変更できません。

- Ⓐ 施設情報（施設名称や住所等）は会員専用ページからは変更できません。「施設登録用紙」を事務局へご提出ください。在籍されている会員全員の情報が一括変更されます。

❓ 部署ごとに施設登録したいのですが。

- Ⓐ 日臨技施設は同施設での複数登録（部課ごとやブランチラボ等の登録）はできません。勤務先の所属部課に入力をお願いします。
- 都道府県施設は部課ごとに登録可能な場合があります。すでに部課の登録がある施設は勤務先（都道府県施設）をプルダウンで選択可能です。部課を追加したい場合は、都道府県技師会にご相談ください。

会員専用ページへログイン後、「会員情報」メニューにある「会員情報変更」をクリックします。

① 基本情報・自宅の変更

※生年月日・性別はご自身で変更できません。万一、誤りがある場合には、事務局までご連絡をお願いいたします。

② 勤務先の変更

会員番号

会員情報

基本情報

氏名 姓 日藤 名 太郎

氏名カナ(全角) 姓 ニチリンギ 名 タロウ

生年月日

1974年3月11日生の場合、19740311と入力し

①～④の入力が終わったら必ず、会員番号の隣にある「保存」ボタンをクリックしてください。保存が完了しますと、登録



◆施設番号が未登録の施設を、勤務先として登録する

◆すでに登録がある施設の名称・住所等を変更する

◆年会費の振替口座を変更する

「口座振替依頼書」にご記入の上、事務局へご郵送ください。

必ず金融機関お届け印・捨印の押印をお願いします。
無印鑑口座の場合は任意の印鑑を押印してください。

◆会員証を再発行する

「会員証再発行申請書」をご記入の上ご提出ください。紛失等の場合は、再発行手数料500円（切手）の同封が必要です。氏名変更の場合は、旧氏名の会員証の貼付があれば無料で再発行いたします。

「退会（異動）」をクリックするとポップアップが
開きます。

都道府県技師会 退会(転出)

退会(転出)する都道府県

退会日

※退会日(退会)する年5月1日の場合、20190501または010501と入力しEnterを押して下さい。

入会(転入)する都道府県

入会日
 退会日の翌日固定

ご勤務先・ご自宅住所以外の都道府県を選択される場合は事前に該当都道府県の規程をご確認ください。

退会する都道府県の退会日を入力し、入会するの都道府県技師会を選択し、「設定」してください。

※都道府県技師会の入会（異動含む）の要件は、事前に入会希望の都道府県技師会にご確認ください。

大規模災害時には会員施設における臨床検査機能を維持することの他、被災地の求めに合わせてJ-MAT（日本医師会）や日本赤十字等と共同し、活動できる臨床検査技師が必要となります。本講習会は、いづれどこで起こるかわからない災害に備え、全国的な支援人材の育成を目的としています。臨床検査技師として災害対策本部で支援活動ができる知識の習得を目標とし、大規模な災害発生時における対応の原則・概念、情報管理や資源管理に関する知識を学んでいただきます。

会期: 令和6年4月1日(月)～10月31日(木)
会場: Web開催(日臨技Web研修会システム)

お申込等詳細は当会HPをご覧ください。
 ←のバナーから検索いただけます。

（編集後記）令和6年度診療報酬改定がスタートします。本改定の重点課題である医療従事者の人材確保や賃上げに向けた取組、タスクシフティング、チーム医療の推進の方向性が具体化されました。日臨技も今回の改定において、人材確保や賃上げの状況について全国の調査が始まっています。

今後さらに進む医療DXやネット診療ですが、うまく利用できない高齢者も数多くいることがわかっています。デジタル化医療が進化する中、人間味のある対応がより重要になるのではないのでしょうか。一人もとりこぼさない医療の在り方を忘れてはいけません。

(今川)

(今川)